

2021年度ユネスコスクール活動調査の結果（概要）

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）では、文部科学省から委託を受け、ユネスコスクールとESD（持続可能な開発のための教育）の推進を目的として、ユネスコスクール活動調査を毎年おこなっています。この度、2021年度の調査結果を取りまとめましたので公表します。

1. 調査結果から見る主な成果

① SDGs（国連持続可能な開発目標）目標4ターゲット4.7の認知度は約9割。

回答者（教員）の89.2%がSDGsの目標4ターゲット4.7の存在を知っていると回答した。加えて、回答者（教員）の95.1%がESDの推進がSDGsの17の各目標達成に大きく関わっていることを知っていると回答した。どちらの回答結果も一昨年、昨年と上昇してきており（昨年は前者86%、後者92%）、SDGsが教育現場で浸透してきたと言える。

② SDGsの17の各目標に対する取組が進められている。

SDGsの17の目標のうち、教育活動に取り入れた特に関連する目標上位5つは下記の通りである。目標12（持続可能な生産と消費）が昨年度よりも上位に入った（昨年度5番目）。

- ・ 目標11（持続可能な都市）—58.2%
- ・ 目標3（保健）—30.6%
- ・ 目標12（持続可能な生産と消費）—29.6%
- ・ 目標4（教育）—26.8%
- ・ 目標15（陸上資源）—24.7%

③ ESDの推進拠点として活動成果の発信が行われている。

昨年度の課題の一つとして「活動成果の発信」が挙げられたが、今年度は実践の発信に「努めた」と回答した学校が79.3%であった。発信方法としては、保護者や地域に向けた学校便りの発行が一番多く（71.9%）、次いで学校の公式ウェブサイトへの掲示（52.7%）、報告会や研修会の実施（33.8%）であった。報告会や研修会の実施については、「教職員の変化を促した主なきっかけ」、「教職員の活動意欲が向上した主な取り組み」の中でも挙げられており、その効果がみられる。

④ ユネスコスクールへ加盟後、ESDを実践したことによる教員の主な変化（上位3つ）は下記の通りである。ESDを意識したカリキュラム、授業、学校運営の実践の回答割合が年々高まっている。

| カリキュラム・教授法の変化

- ・ 教科領域を超えて横断的に取り組むなどカリキュラムマネジメントを工夫するようになった—56.6%
- ・ 持続可能性に関する価値観をもとに授業等を見直す機会をもたらした—55.6%
- ・ 授業の教材や資料、発問を工夫するようになった—52.7%

| 学校運営の変化

- ・ 学校全体でESDに取り組む機運が高まった—60.0%

- ・ 教員が積極的に地域の方々と交流し、双方の信頼関係が深まった—45.2%
- ・ 教員間で持続可能性に関する価値観を話し合う場をもつことができるようになった—40.2%

2. 調査結果から見る主な課題

① コロナ禍における学校間交流の在り方を検討する必要がある。

学校間交流を実施していない学校は全体の 51.9%にのぼり、海外の学校と交流したと回答した割合は昨年度同様依然低い水準を保ち 18.5%となった。その一方、交流方法は国内外ともにオンラインで交流した割合が一番大きくなっておりコロナ禍が断続的に続く中、新しい交流の形を模索している学校が多いことが分かる。ユネスコスクール公式ウェブサイトの学校間交流ページや他校の交流事例を参考に、また、ASPUnivNet などの支援を活用しながら、新たな交流活動を展開していくことが期待される。

② ユネスコスクール活動支援の活用が十分ではない。

ユネスコスクール事務局の利用状況について「特になし」の回答が 43.4%、同様に ASPUnivNet からの協力や支援について「特になし」の回答が 83.8%となっている。公式ウェブサイト等でそれぞれの支援メニューを明示化し、広く周知する必要がある。また、加盟校・キャンディデート校と ASPUnivNet の連携強化も求められる。

③ ユネスコスクールの教育活動に対する評価手法が十分開発されていない

ユネスコスクールの教育活動を評価するための工夫をしていないと回答した学校は全体の 43.4%にのぼったが、昨年度の 51%、一昨年度の 82%に比べると減少傾向にあり、年々評価に対する認識が高まっていると言える。プレゼンやルーブリックを用いた評価の実践を行っている学校も多数あるため、ユネスコスクールのネットワークを活かし、それらの取組を広く共有する必要がある。

3. 調査の概要

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が文部科学省の受託調査として 2021 年 12 月 16 日～2022 年 3 月 31 日に実施。調査内容は 2021 年度の学校の取組（2020 年 12 月～2021 年 11 月）を対象としている。国内のすべてのユネスコスクールに対してウェブによる回答協力を依頼し、493 校（回答率約 45.8%）から回答を得た。

（調査実施元）

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル
 TEL:03-5577-2852 FAX:03-5577-2854
 E-mail:webmaster@accu.or.jp
 ユネスコスクール公式ウェブサイト:<https://www.unesco-school.mext.go.jp/>

令和 3(2021)年度 文部科学省委託 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業

2021 年度 ユネスコスクール年次活動調査結果

目次

2021 年度ユネスコスクール年次活動調査に関して	1
2021 年度ユネスコスクール年次活動調査 結果	1
調査方法	1
今年度の活動についての調査	2
ユネスコスクールの位置付けについて	2
国内外の学校間交流について	7
学校以外の団体との協働について	12
ESD の推進拠点としての活動成果の発信	15
ユネスコスクールとしての活動の成果	16
ユネスコスクールが重点的に取り組む 3 つの分野	16
ESD と SDG _s の関係に関する認知度	17
ユネスコスクールとしての活動による変化	18
ユネスコスクール支援の利用状況	24

<図表目次>

図 1 担当者設置の有無	2	図 11 国内外の学校との交流(ユネスコスクールに限定しない)	7
図 2 ユネスコスクール担当者の役職	2	図 12 学校間交流を実施するようになったきっかけ	7
図 3 ユネスコスクール担当者の年齢層	3	図 13 国内外のユネスコスクールとの交流	7
図 4 学校全体で組織的・継続的に取り組むための工夫	3	図 14 国内のユネスコスクールと実施した交流活動方法	7
図 5 学校規模(幼児児童生徒数)	4	図 15 国内のユネスコスクールと実施した交流活動内容	8
図 6 学校規模(教職員数)	4	図 16 海外のユネスコスクールと実施した交流活動方法	9
図 7 校内における国内外のユネスコスクールの情報を取得できるICT環境の有無	5	図 17 海外のユネスコスクールと実施した交流活動内容	9
図 8 外国語での情報発信、交流の環境整備状況	5	図 18 海外交流校の国、地域名	10
図 9 ユネスコスクールの活動にかかる費用の捻出方法	5	図 19 交流しなかった理由	11
図 10 新型コロナウイルス感染症の流行によるユネスコスクールの活動への影響	6	図 20 学校以外の団体との連携の有無	12
		図 21 連携先の団体	12
		図 22 学校以外の団体との連携内容	13

図 23 校外におけるESD・ユネスコ活動に関する研修への参加の有無	14	図 35 最も変化の見られた持続可能な社会づくりを構成する6つの視点	20
図 24 ユネスコスクールに係る教育活動の実践等の発信、理念の普及	15	図 36 ユネスコスクールの教育活動で取り上げたSDGs17の目標	21
図 25 成果の発信・普及方法	15	図 37 ユネスコスクールの教育活動による教員のカリキュラム・教授法の変化	22
図 26 ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野のうち、特に活動成果のあるもの	16	図 38 ユネスコスクールの教育活動による教員の学校運営の変化	22
図 27 「ESD:SDGs 達成に向けて(ESD for 2030)」の認知度	17	図 39 ユネスコスクール事務局の利用状況	24
図 28 SDGs 目標4(教育)ターゲット4.7の認知度	17	図 40 ユネスコスクール公式ウェブサイトの利用状況	24
図 29 新学習指導要領(小中高等学校)又は新幼稚園教育要領前文におけるESDに関する文言の明記の認知度	17	図 41 ユネスコスクール公式ウェブサイト機能の利用状況	25
図 30 ESDとSDGs17のゴールの関連性に関する認知度	17	図 42 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)からの協力・支援内容	25
図 31 ユネスコスクールにおける教育活動を通じた育みたい資質・能力の明確化	18	表 1 ユネスコスクールの活動にかかる費用助成団体	6
図 32 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための工夫	19	表 2 新型コロナウイルス感染症の流行によるユネスコスクールの活動への影響	6
図 33 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための評価方法	19		
図 34 最も変化の見られた「資質・能力の三つの柱」	19		

表 3 コロナ禍においてユネスコスクールの活動を展開するための工夫..... 6	表 12 外部団体と交流したことによる主な課題..... 14
表 4 国内のユネスコスクールと交流した際の主な成果..... 8	表 13 研修会を主催していた主な団体..... 14
表 5 国内のユネスコスクールと交流した際の主な課題..... 8	表 14 ユネスコスクール活動を通して身についた主な資質・能力..... 18
表 6 海外のユネスコスクールと交流した際の主な成果..... 10	表 15 児童生徒の変化を促した主なきっかけ..... 20
表 7 海外のユネスコスクールと交流した際の主な課題..... 10	表 16 教職員の変化を促した主なきっかけ..... 23
表 8 海外交流に関する情報収集先..... 10	表 17 教職員の活動意欲が向上した主な取り組み..... 23
表 9 海外交流に関する支援団体/ネットワーク..... 11	表 18 ユネスコスクール事務局に求める支援内容..... 24
表 10 外部団体と交流することになった主なきっかけ..... 13	表 19 質問5「その他」を選択した場合、簡潔にご記入ください。..... 26
表 11 外部団体と交流したことによる主な成果..... 13	

2021年度ユネスコスクール年次活動調査に関して

2021年度のユネスコスクール活動調査(以下「活動調査」という)は、文部科学省から委託を受け、ユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)によって2021年12月16日～2022年3月31日の間に行われたものである。

この活動調査は、今後のユネスコスクールの活動の一層の振興に向けて、ユネスコスクールの現状、課題、成果等を把握することを目的に実施したものである。調査内容は2021年度の学校の取組(2020年12月～2021年11月)を対象としている。

本報告書内の記述回答に関する分析は、簡易的な記述統計から浮かび上がる論点について整理したものであり、厳密な統計分析作業を経て導かれたものではない。なお、複数回答可の設問では、数値の合計は100%を超える場合がある。

2021年度ユネスコスクール年次活動調査 結果

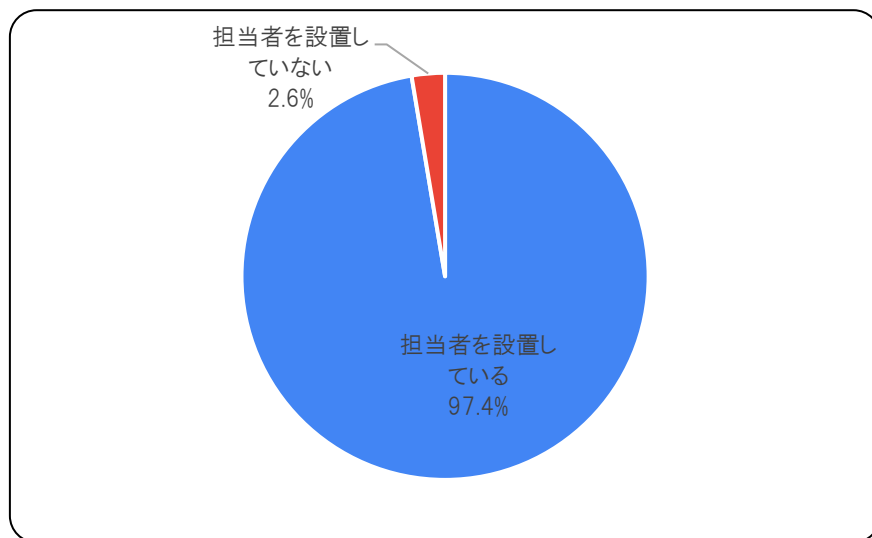
調査方法

2021年度活動調査は、全ユネスコスクール加盟校1,077校に対してウェブ回答によって回答協力を募った。最終的には493校(回答率約45.8%)から回答を得ることができた(前年度より15.2%減↓)。活動調査の依頼方法は、公式ウェブサイトへの掲示、メールによるお知らせに加え、文部科学省から教育委員会を通じてユネスコスクールへメールにて周知をおこなった。

今年度の活動についての調査

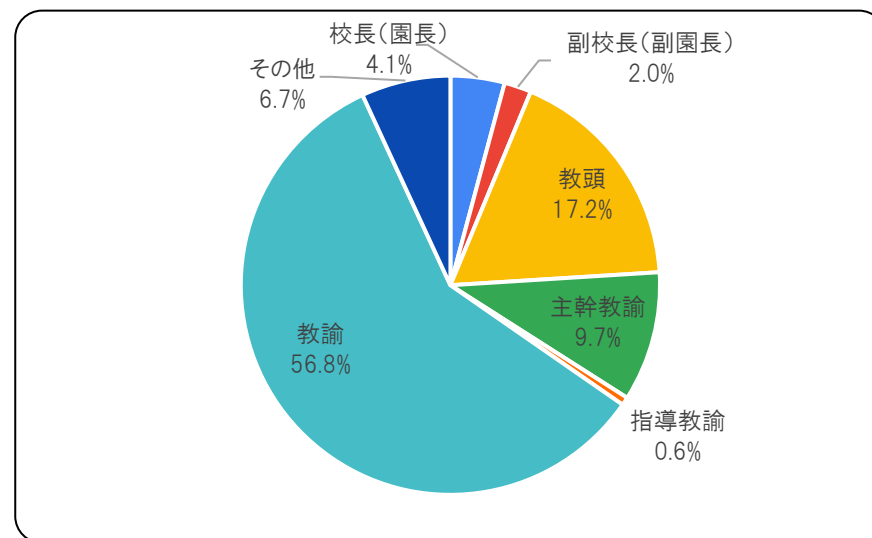
ユネスコスクールの位置付けについて

図 1 担当者設置の有無



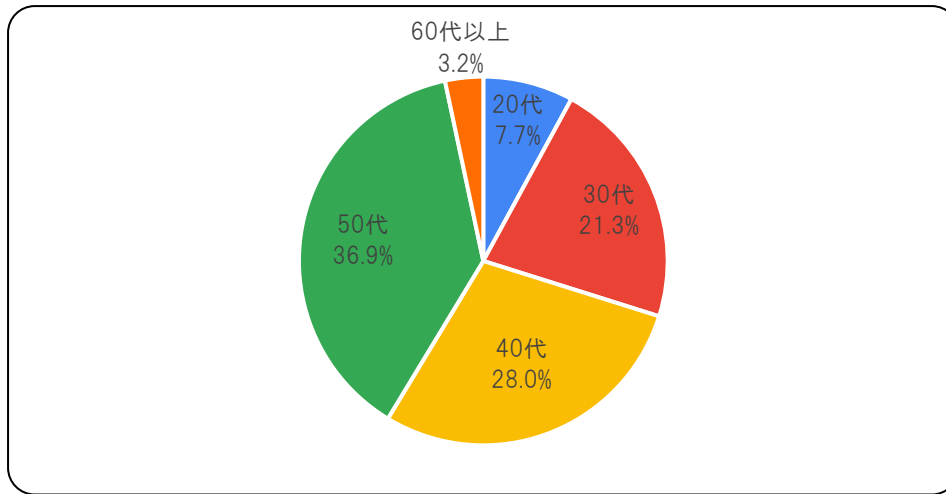
(参照:1. ① 質問 1)[N=493]

図 2 ユネスコスクール担当者の役職



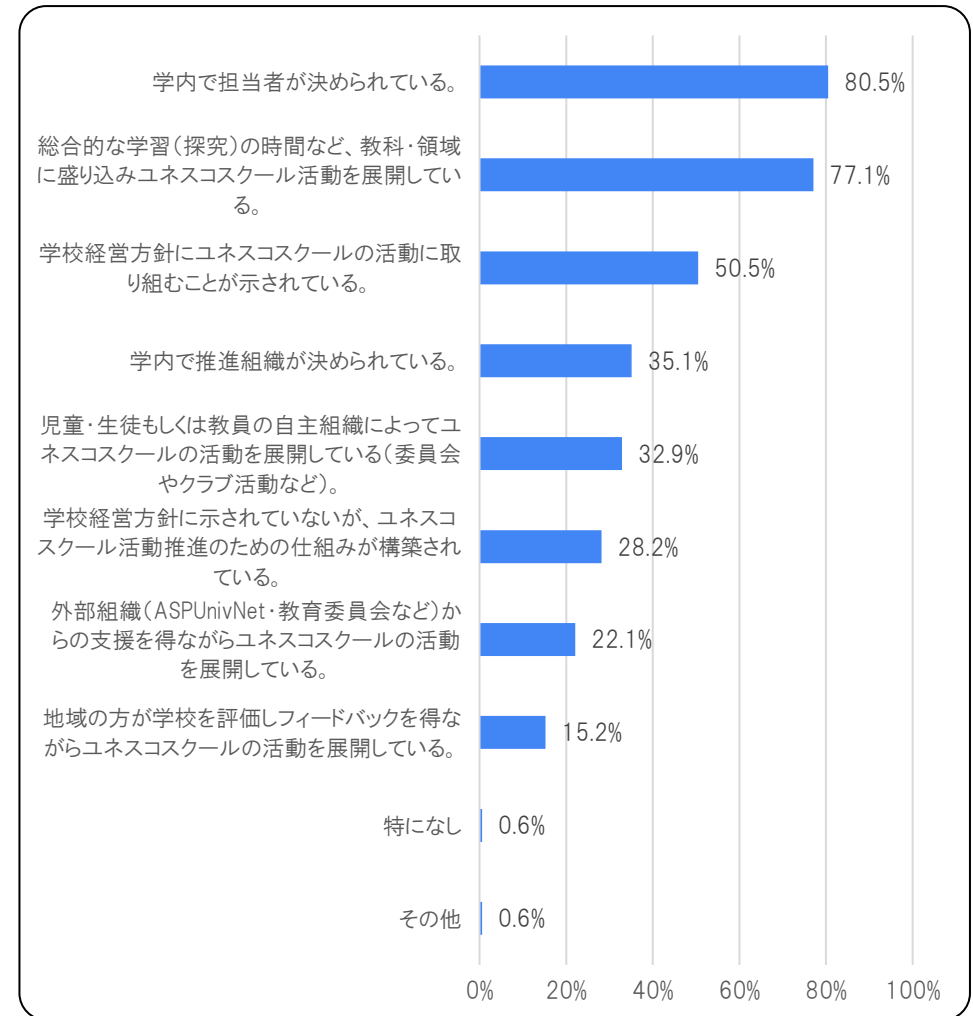
(参照:1. ① 質問 2)[N=479]

図 3 ユネスコスクール担当者の年齢層



(参照:1. ① 質問 3)[N=479]

図 4 学校全体で組織的・継続的に取り組むための工夫

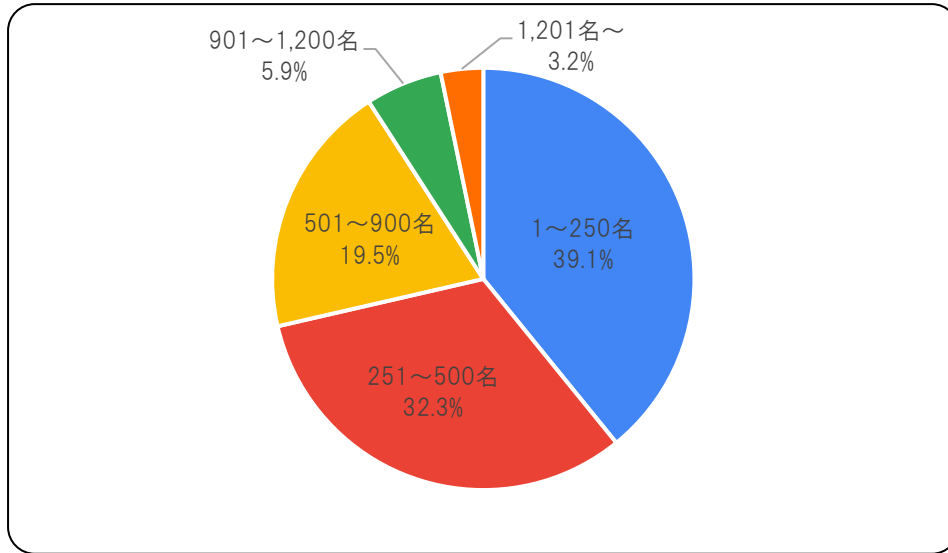


(参照:1. ① 質問 4)[N=493(※複数回答可)]

3

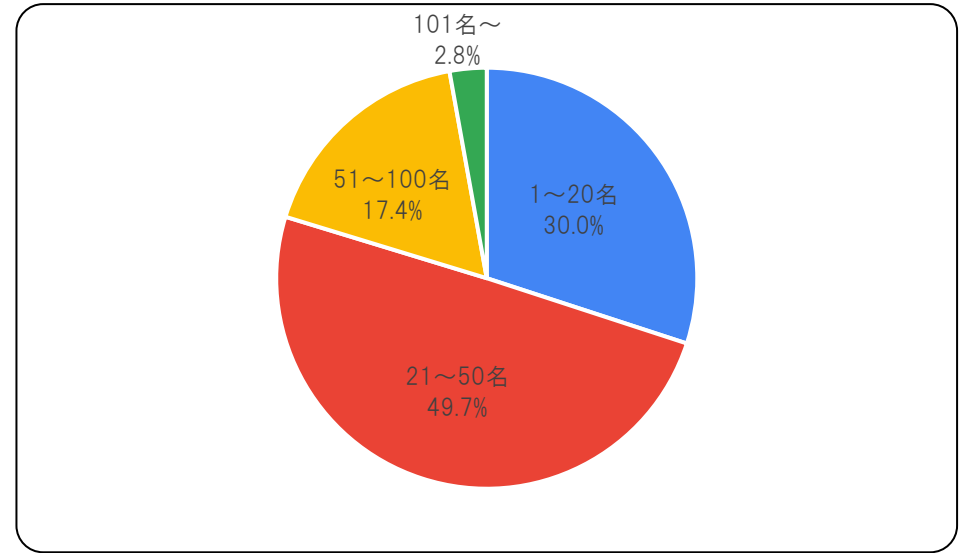
その他の回答:「国際デー」について朝の学活や昼食時の放送で伝えて、考える時間としている。ESDIに関する研究発表会を毎年行っている。WWL の指定校としての活動の中に組み込んでいる。

図 5 学校規模(幼児児童生徒数)



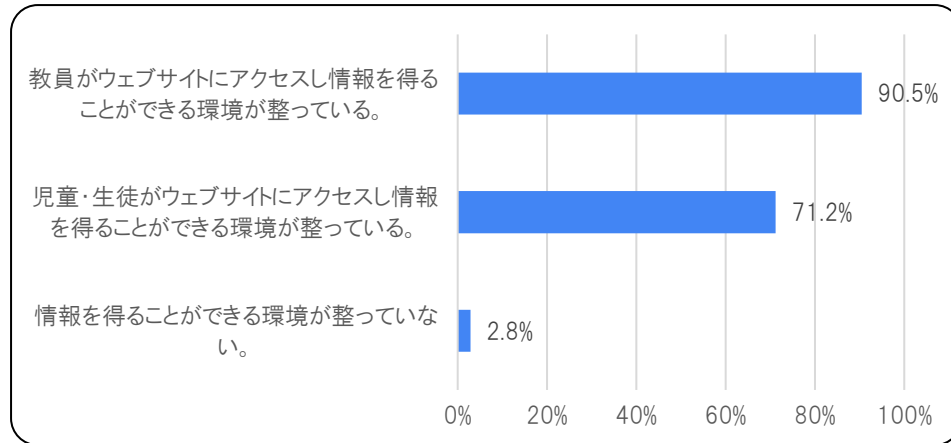
(参照:1. ① 質問 5)[N=493]

図 6 学校規模(教職員数)



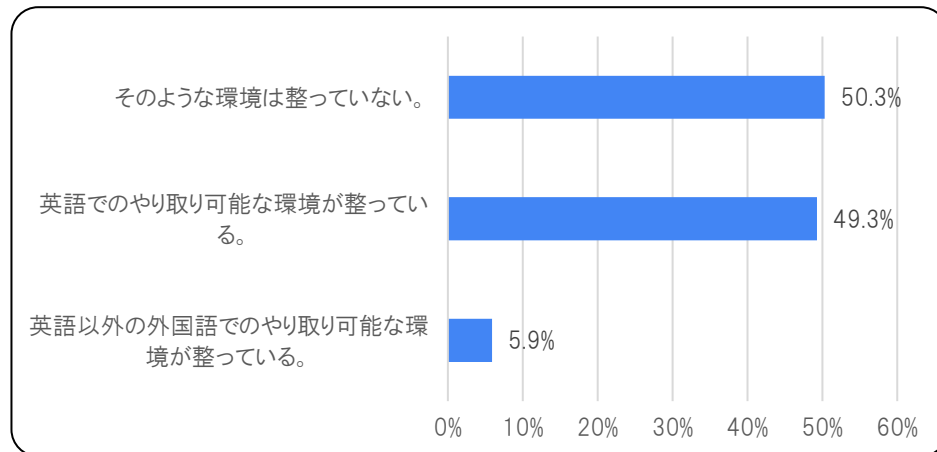
(参照:1. ① 質問 6)[N=493]

図 7 校内における国内外のユネスコスクールの情報を取得できるICT環境の有無



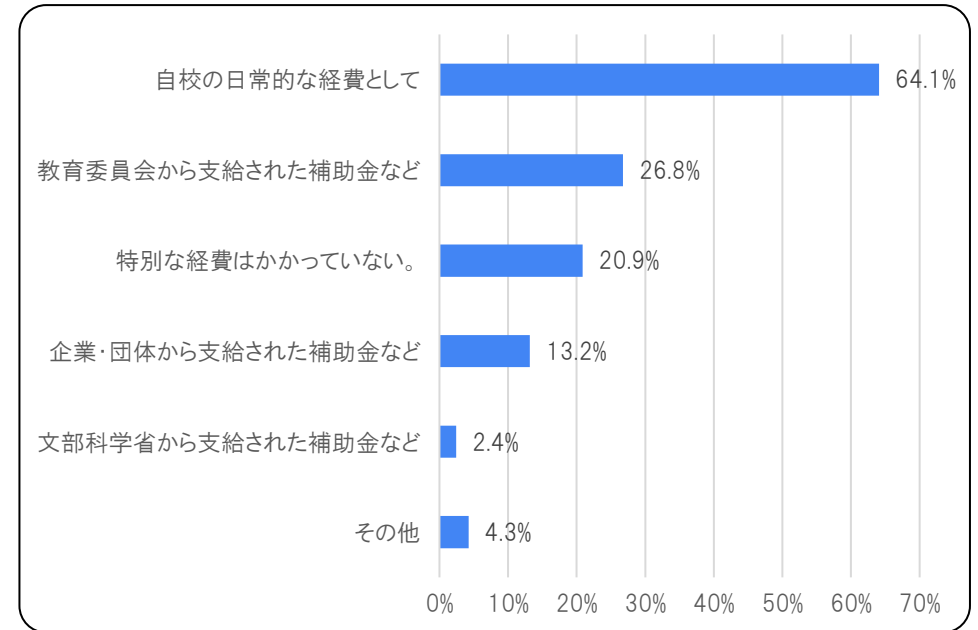
(参照:1. ① 質問 7)[N=493(※複数選択可)]

図 8 外国語での情報発信、交流の環境整備状況



(参照:1. ① 質問 8)[N=493(※複数選択可)]

図 9 ユネスコスクールの活動にかかる費用の検出方法



(参照:1. ① 質問 9)[N=493(※複数選択可)]

表 1 ユネスコスクールの活動にかかる費用助成団体

主な団体/組織	
国や地方公共団体運営事業の予算	教育に関する地域の協議会
教育関連の助成をする 公益財団法人や一般社団法人	企業
JA(農業協同組合)	大学
ロータリークラブ	各校の同窓会、振興会
地域のユネスコ協会	地域の助成団体

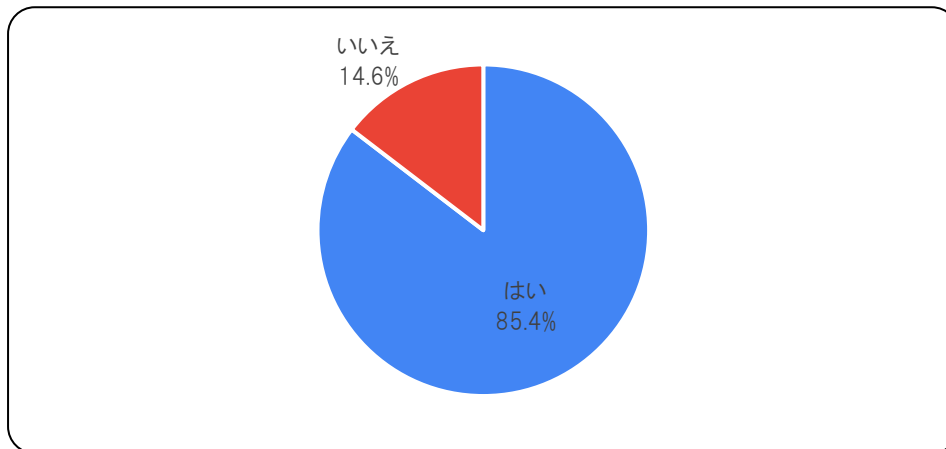
(参照:1. ① 質問 10)(N=83)

表 2 新型コロナウイルス感染症の流行によるユネスコスクールの活動への影響

・ 人数や場所など活動規模の縮小または活動の中止に追い込まれた
・ 地域や外部団体の方との交流機会が減少した
・ 三密回避のため校内外での学習に制限がかかった
・ 実施形態や時期の変更を余儀なくされた
・ 留学生の受け入れや海外研修をおこなうことができなかった

(参照:1. ① 質問 12)(N=413)

図 10 新型コロナウイルス感染症の流行によるユネスコスクールの活動への影響



(参照:1. ① 質問 11)(N=493)

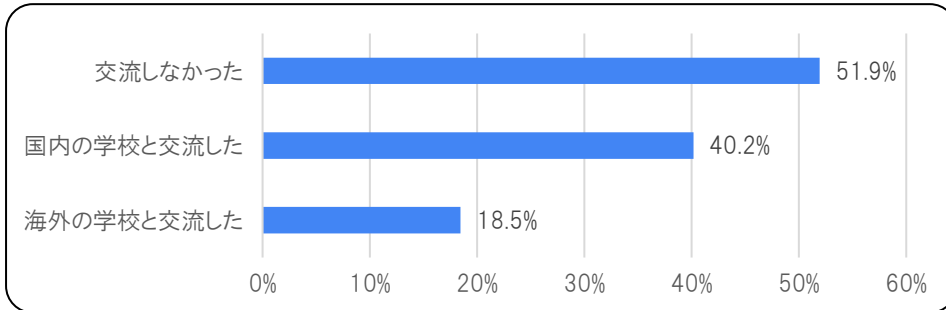
表 3 コロナ禍においてユネスコスクールの活動を展開するための工夫

・ これまでの対面形式をオンライン形式に変更した
・ 人数を減らしたり場所を広くしたりするなど活動形態を工夫した
・ 作品交換や手紙交換など、間接的におこなう交流への見直しをおこなった
・ 出前授業もリモート対応してくれる業者をお願いした
・ 感染防止対策を徹底した

(参照:1. ① 質問 13)(N=413)

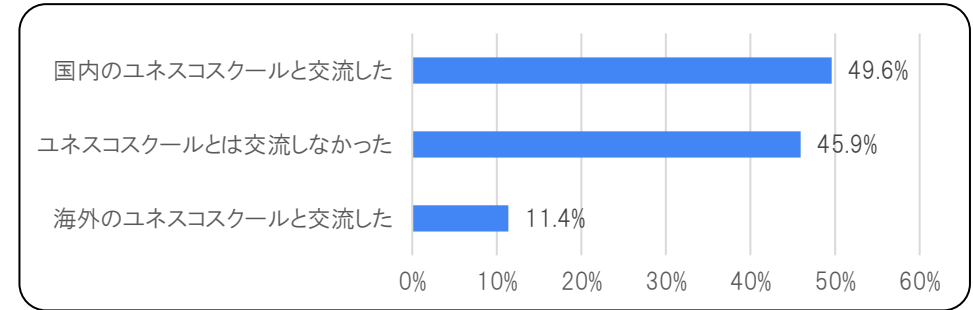
国内外の学校間交流について

図 11 国内外の学校との交流(ユネスコスクールに限定しない)



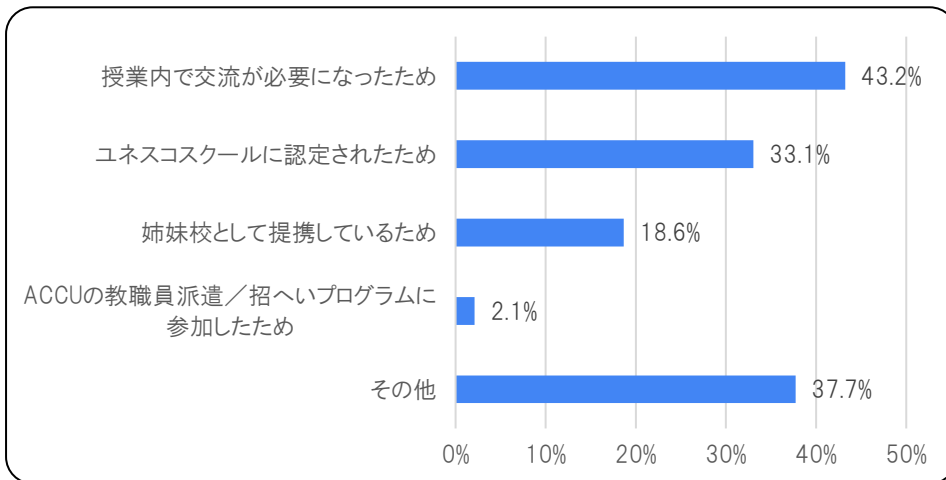
(参照:1. ② 質問 1)[N=493(※複数選択可)]

図 13 国内外のユネスコスクールとの交流



(参照:1. ② 質問 3)[N=246(※複数選択可)]

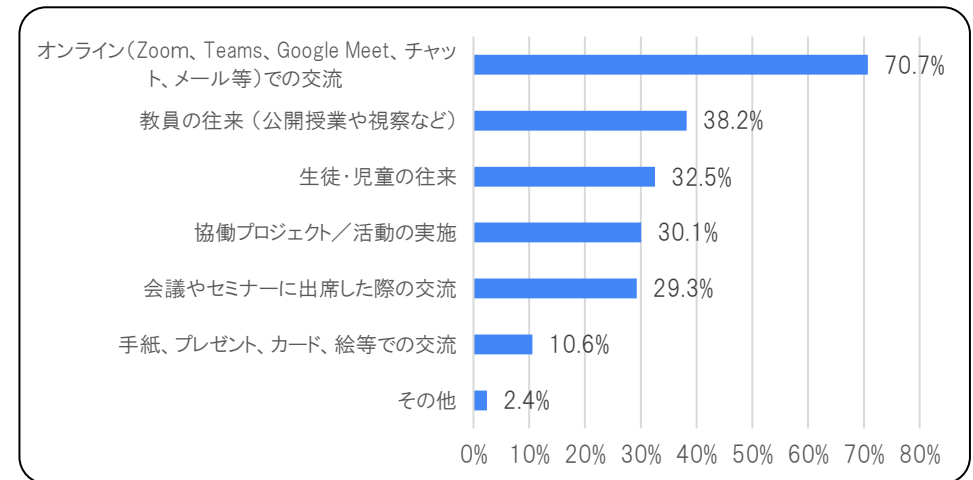
図 12 学校間交流を実施するようになったきっかけ



(参照:1. ② 質問 2)[N=236(※複数選択可)]

その他の主な回答: 地方自治体が機会を提供している。同学区内の学校との交流を継続して行っている。
生徒会や部活動で交流会が設定されている。

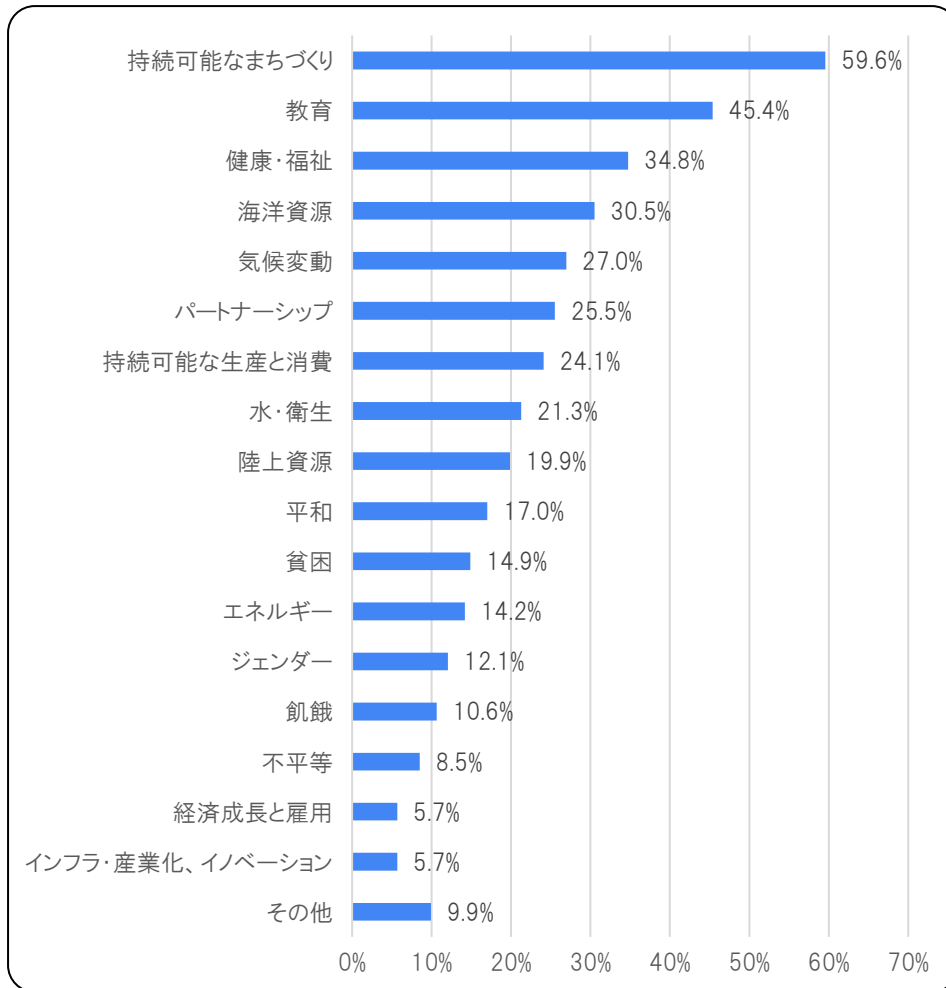
図 14 国内のユネスコスクールと実施した交流活動方法



(参照:1. ② 質問 4)[N=123(※複数選択可)]

その他の主な回答: 教員研修会にてユネスコ活動の共有や共同授業案作成。校外学習の協働実施。

図 15 国内のユネスコスクールと実施した交流活動内容



(参照:1. ② 質問 5) [N=141] (※複数選択可)

その他の主な回答: 食育、人との絆、いじめ防止、グローバル教育、防災や減災、伝統文化、地球市民性

表 4 国内のユネスコスクールと交流した際の主な成果

・ 自分たちの活動を発信することができ、互いの取組を理解することができた
・ 他校の取組のよさを知ること、新たな視点を見つけることができた
・ 学習意欲の向上につながった
・ 自分たちの学びが共通するものだと知ることができた
・ 協働を通して様々な視点から課題について考えることができた

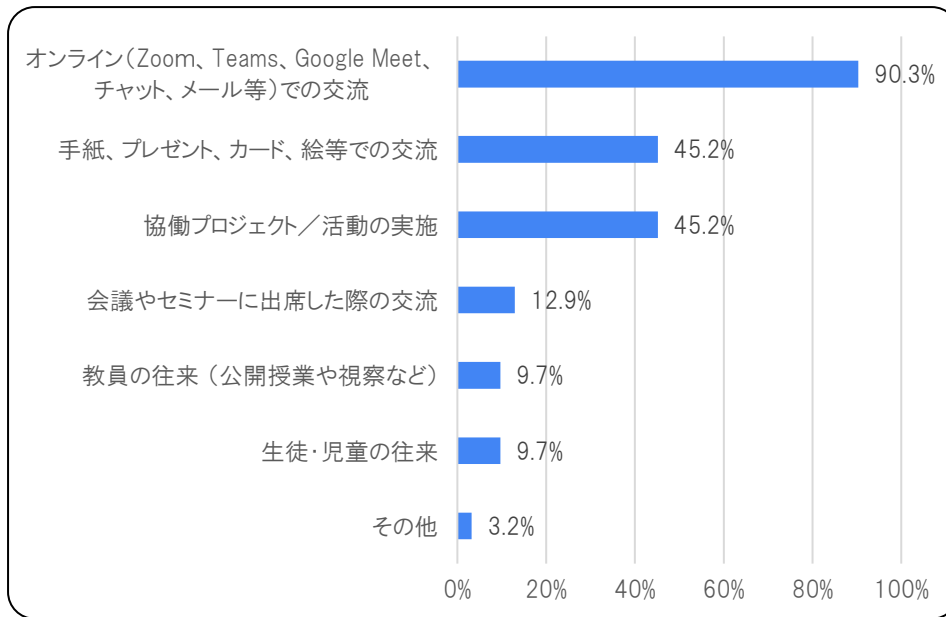
(参照:1. ② 質問 6) [N=125]

表 5 国内のユネスコスクールと交流した際の主な課題

・ 交流の事前準備や事務処理などの時間の確保
・ 交流を継続的なものにするのが難しいと感じた
・ 電子機器の不具合
・ コロナ禍のため、交流人数や時間が制限される
・ カリキュラムの中での位置づけが難しかった

(参照:1. ② 質問 7) [N=116]

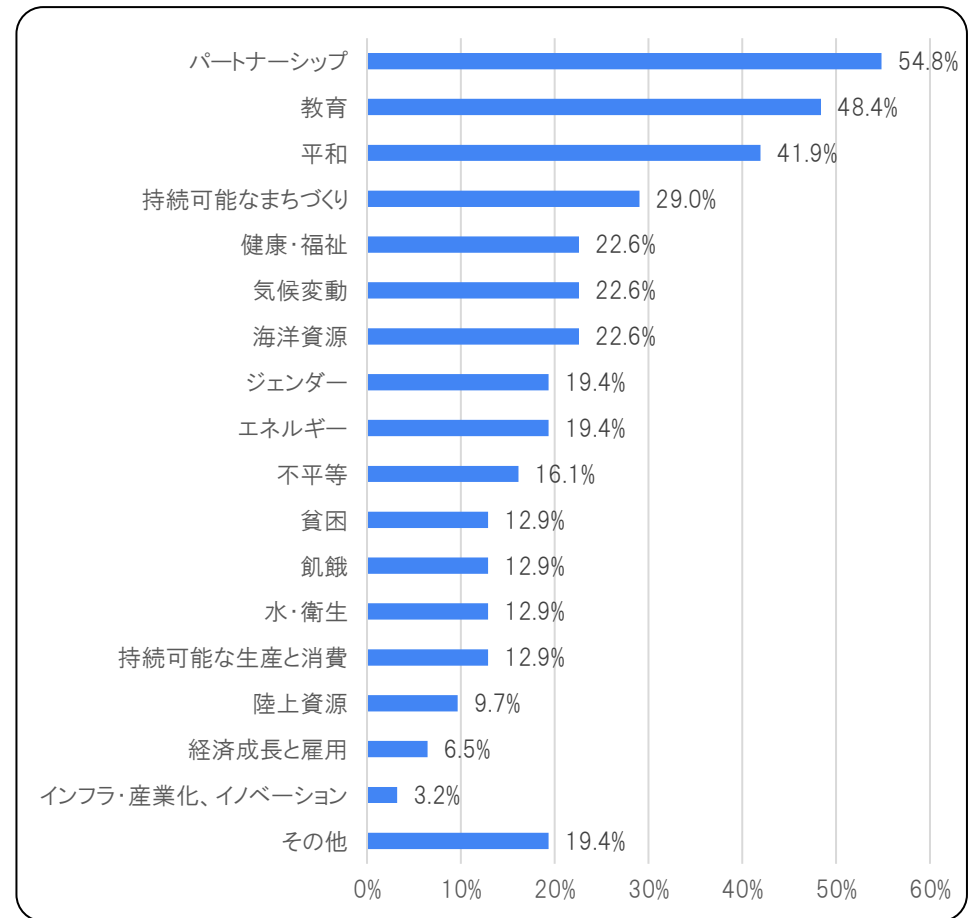
図 16 海外のユネスコスクールと実施した交流活動方法



（参照：1. ② 質問 8）[N=31（※複数選択可）]

その他の主な回答：地域のユネスコスクール高校ネットワークとして交流

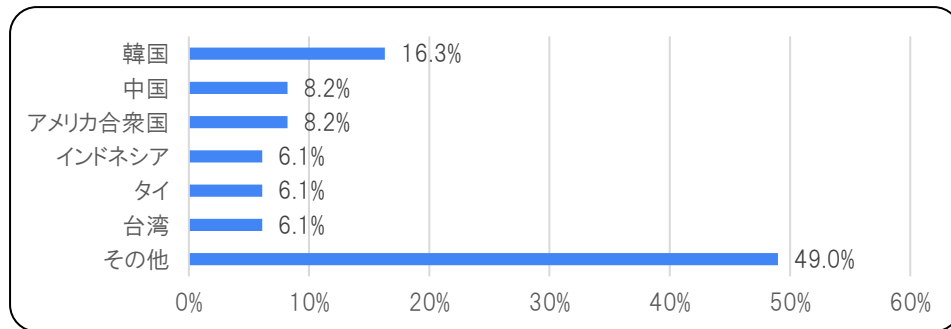
図 17 海外のユネスコスクールと実施した交流活動内容



（参照：1. ② 質問 9）[N=31（複数選択可）]

その他の主な回答：文化理解、新型コロナウイルスに関する課題、地球市民性（グローバルシティズンシップ）

図 18 海外交流校の国、地域名



(参照:1. ② 質問 10) [N=49(複数選択可)]

その他の主な回答:オーストラリア、ドイツ、ブルガリア、メキシコ

表 6 海外のユネスコスクールと交流した際の主な成果

・ 国際交流を通して、多文化共生についての理解が深まった
・ 世界平和を実現する力が自分の内にあることを児童・生徒や教員が実感する機会となった
・ グローバルな視点とマネジメント能力を身につけたグローバル人材の育成に寄与している
・ 国際的文脈で何が問題・課題として捉えられているかを知ることができた

(参照:1. ② 質問 11) [N=30]

表 7 海外のユネスコスクールと交流した際の主な課題

・ 相手国との時差による時間設定
・ 相手校とコミュニケーションを取るための言葉の壁
・ オンライン交流のための通信設備が整っていない
・ オンライン交流だと、対面での交流よりも制限がかかる

(参照:1. ② 質問 12) [N=26]

表 8 海外交流に関する情報収集先

主な団体	
国/都道府県/市町村教育委員会などの 行政機関	教員の伝手を辿り直接連絡
地域のユネスコ協会	ユネスコスクール事務局(ACCU)
ASPUivNet、高等教育機関	インターネットで検索
地域のユネスコスクールネットワーク	UNESCO 関連機関
姉妹校	教育関連の公益/一般財団(社団)法人 (ジャパンアートマイルなど)

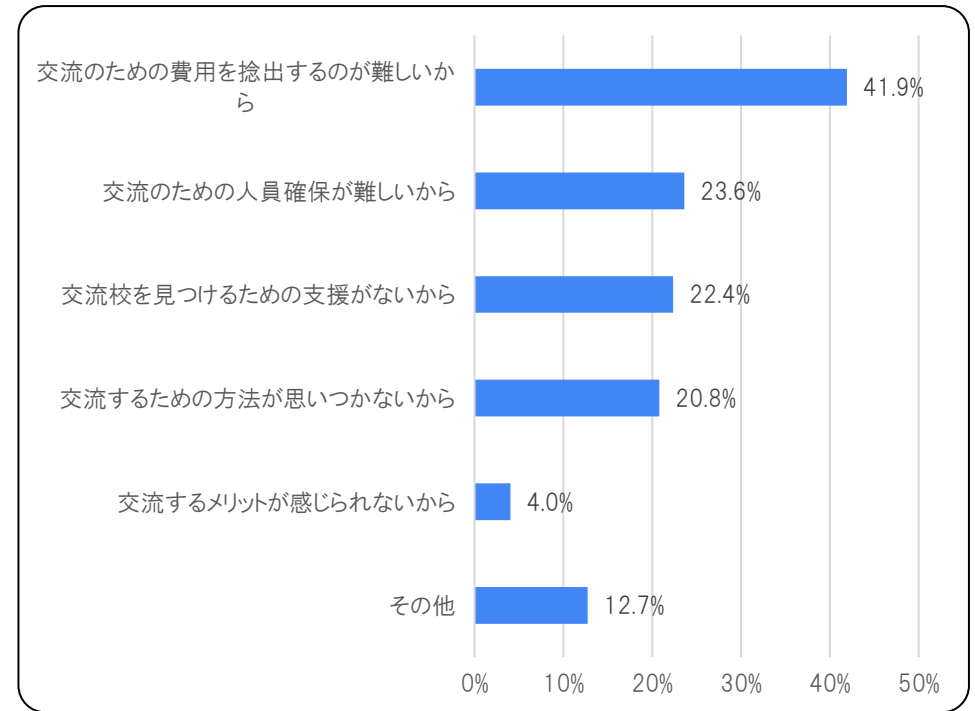
(参照:1. ② 質問 13) [N=32]

表 9 海外交流に関する支援団体/ネットワーク

団体名	
国/都道府県/市町村教育委員会などの 行政機関	地域のユネスコ協会
教育関連の公益/一般財団(社団)法人 (ジャパンアートマイルなど)	ユネスコスクール事務局(ACCU)
UNESCO 関連機関	独立行政法人
国際交流関連機関	国内外の大学

(参照:1. ② 質問 14)[N=23]

図 19 交流しなかった理由

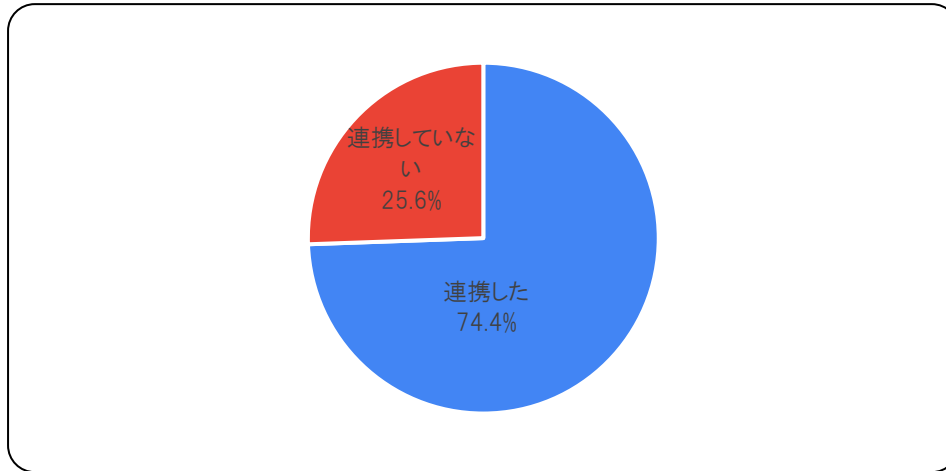


(参照:1. ② 質問 15)[N=322(※複数選択可)]

その他の主な回答:コロナ禍による感染防止を最優先に考え交流を控えた。交流の準備等に要する時間の確保が難しい。例年留学生との交流の場を持っていたが、コロナ禍により受け入れができなくなった。交流をしている相手校がユネスコスクールではない。コロナ禍により移動が制限された。

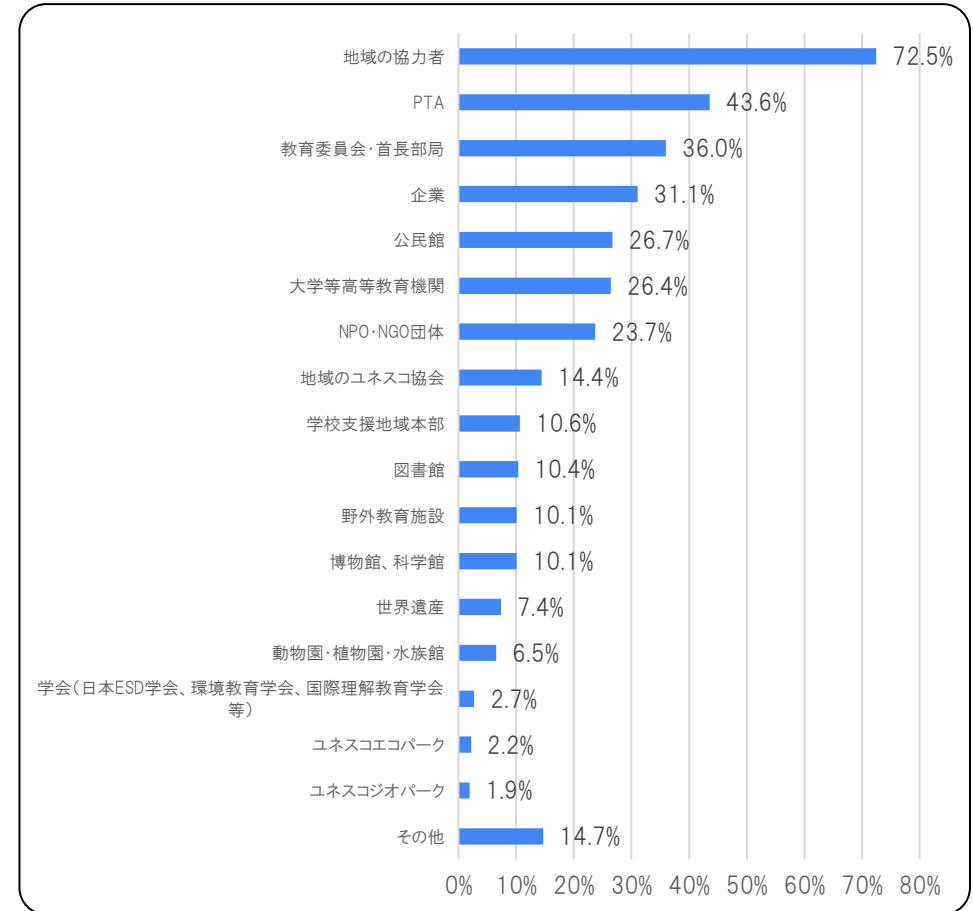
学校以外の団体との協働について

図 20 学校以外の団体との連携の有無



(参照:1. ③ 質問 1)[N=493]

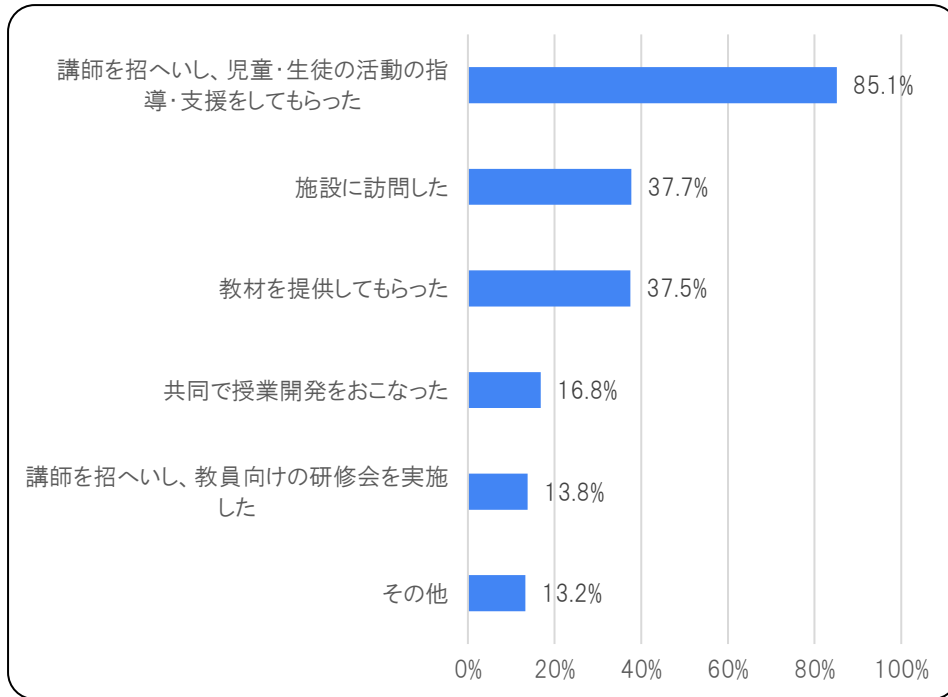
図 21 連携先の団体



(参照:1. ③ 質問 2)[N=367(※複数選択可)]

12 その他の主な回答:地方公共団体、国の機関、地域の公的機関や施設、教育に関連する団体

図 22 学校以外の団体との連携内容



(参照:1. ③ 質問 3)[N=363(※複数選択可)]

その他の主な回答:参加するプロジェクトの仲介をもらった。相互交流をおこなった。広報活動にご協力いただいた。成果物を展示していただいた。

表 10 外部団体と交流することになった主なきっかけ

・ 地域学習のために学校から依頼し、地域の団体等から支援をいただいている
・ 掲示板や回覧板、学校通信での呼びかけ
・ 学校関係者からの紹介
・ 団体のホームページを参照し、問い合わせた
・ 先方からお声がけいただいた

(参照:1. ③ 質問 4)[N=337]

表 11 外部団体と交流したことによる主な成果

・ 学校と地域との結びつきを強化できた
・ 学校の資源ではできない多様な活動ができた
・ 専門的な知識を得ることで理解が深められた
・ 児童生徒の学習意欲が向上した
・ 外部の方との交流を通して、思いやりや感謝の気持ちがより育まれた

(参照:1. ③ 質問 5)[N=340]

表 12 外部団体と交流したことによる主な課題

・ 先方との日程調整や交流時間の確保
・ 今後も交流を継続させるための工夫
・ 交流の意義や目的を明確化し、関係者間で共有すること
・ コロナ禍による活動内容の制限
・ 必要経費の捻出が難しかった

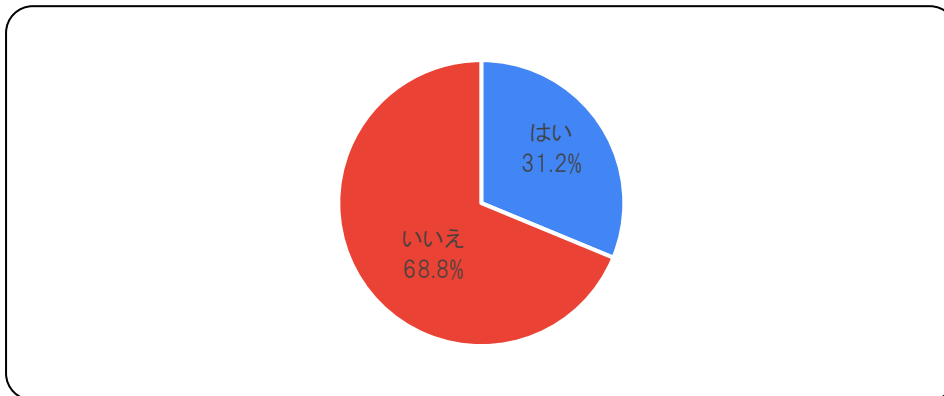
(参照:1. ③ 質問 6)[N=302]

表 13 研修会を主催していた主な団体

団体名	
国/都道府県/市町村教育委員会など 行政機関	ユネスコスクール事務局(ACCU)
学会や研究会	ESD 活動支援センター
NPO/NGO	日本 ESD 学会
ASPUivNet、大学機関	各地の ESD コンソーシアム
日本ユネスコ協会連盟、地域のユネスコ協 会、地域のユネスコ連絡協議会	ユネスコスクール地域ネットワーク
企業	ESD 地域拠点(RCE)
ユネスコ関連機関、国際機関	教育関連の公益/一般財団(社団)法人

(参照:1. ③ 質問 8)[N=152]

図 23 校外におけるESD・ユネスコ活動に関する研修への参加の有無

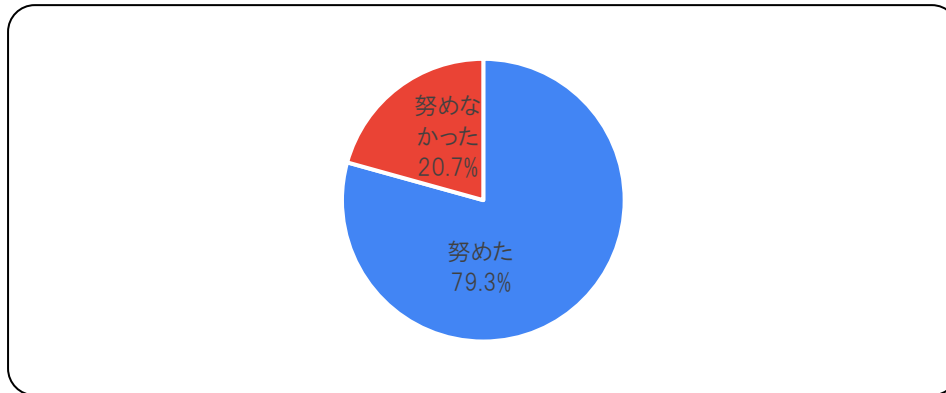


(参照:1. ③ 質問 7)[N=493]

- **質問 9 の回答結果**につきましては、ユネスコスクール事務局にてイベント情報収集のための参考とさせていただきます。

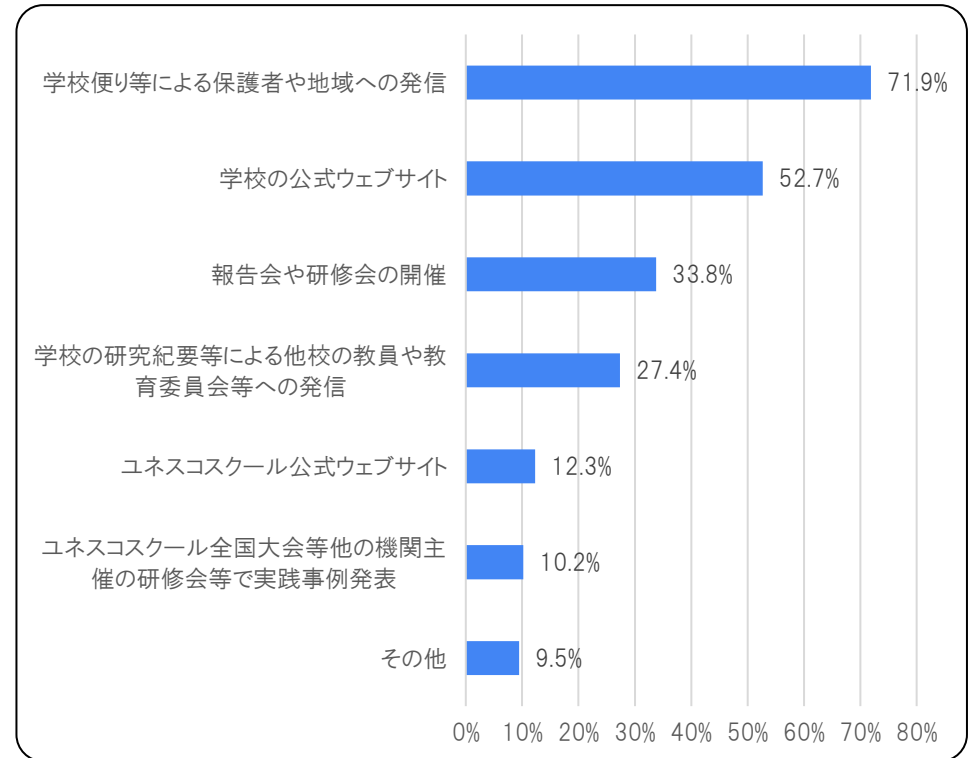
ESD の推進拠点としての活動成果の発信

図 24 ユネスコスクールに係る教育活動の実践等の発信、理念の普及



(参照:1. ④ 質問 1)[N=493]

図 25 成果の発信・普及方法



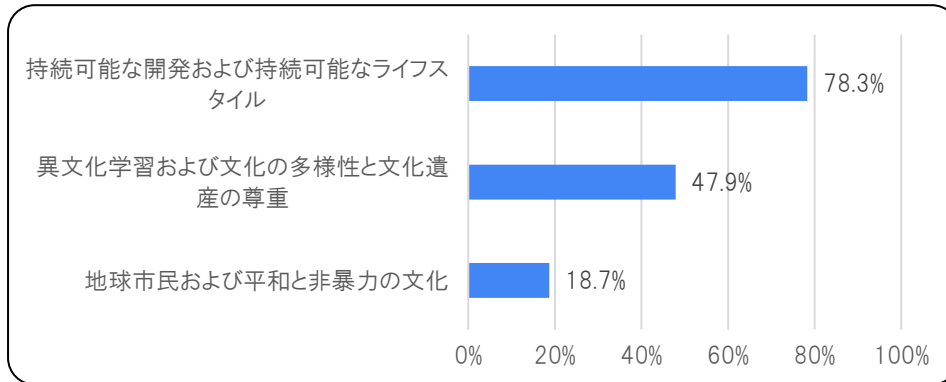
(参照:1. ④ 質問 2)[N=391(※複数選択可)]

その他の主な回答:メディアでの掲載、各種イベントでの発表、冊子の作成、オンライン講座の開催、独自サイトの開設、コンテストへの参加

ユネスコスクールとしての活動の成果

ユネスコスクールが重点的に取り組む 3 つの分野

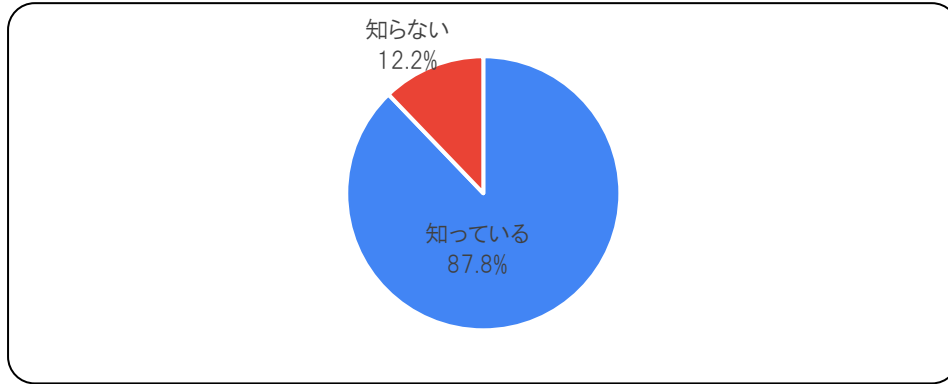
図 26 ユネスコスクールが重点的に取り組む 3 つの分野のうち、特に活動成果のあるもの



(参照:2. ① 質問1)[N=493(複数選択可)]

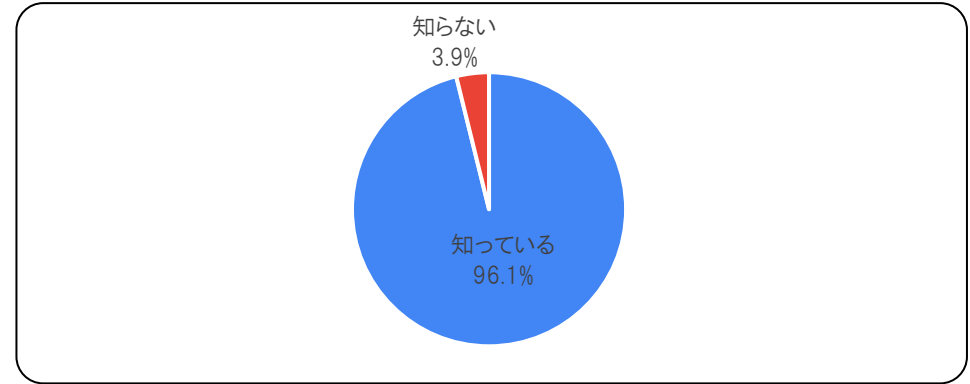
ESD と SDGs の関係に関する認知度

図 27 「ESD:SDGs 達成に向けて(ESD for 2030)」の認知度



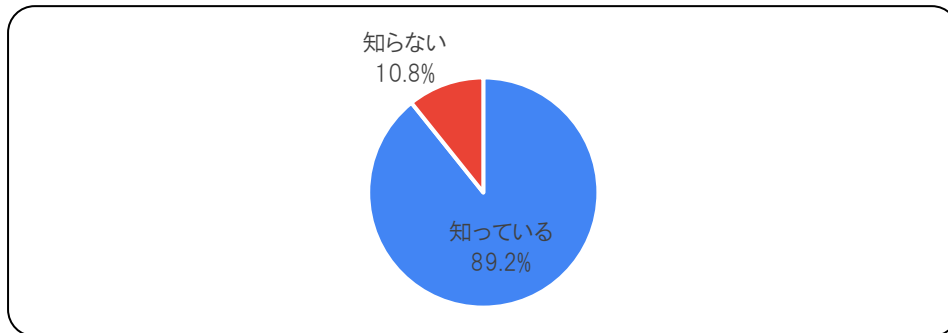
(参照:2. ② 質問 1)(N=493)

図 29 新学習指導要領(小中高等学校)又は新幼稚園教育要領前文における ESD に関する文言の明記の認知度



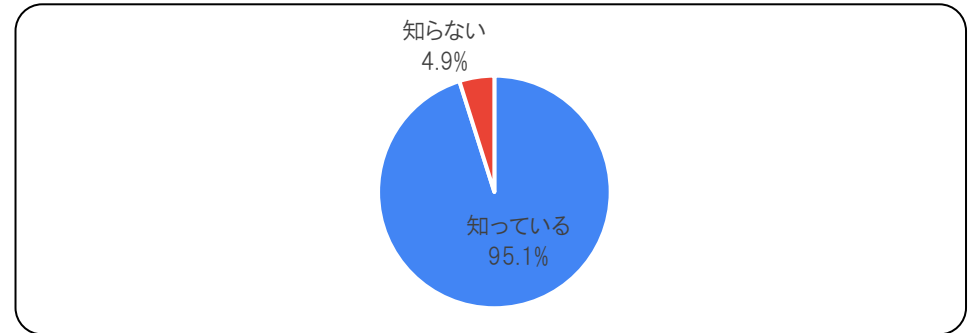
(参照:2. ② 質問 3)(N=493)

図 28 SDGs 目標 4(教育)ターゲット 4.7 の認知度



(参照:2. ② 質問 2)(N=493)

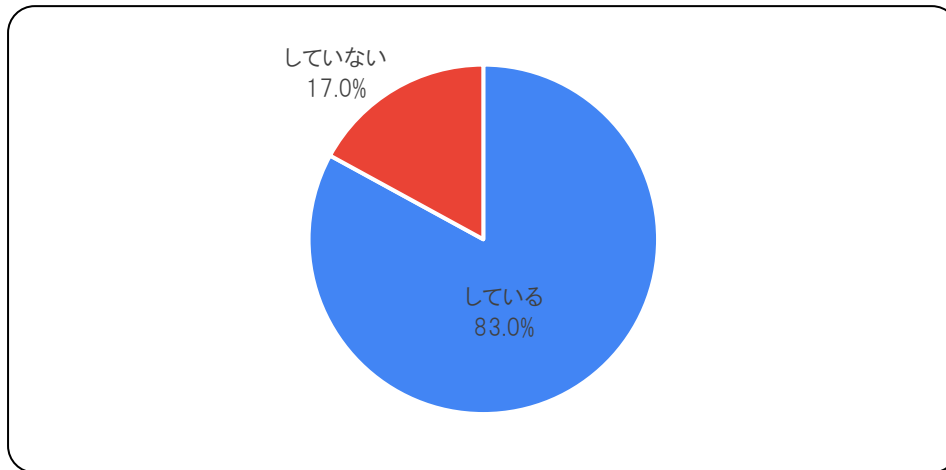
図 30 ESD と SDGs17 のゴールの関連性に関する認知度



(参照:2. ② 質問 4)(N=493)

ユネスコスクールとしての活動による変化

図 31 ユネスコスクールにおける教育活動を通じた育みたい資質・能力の明確化



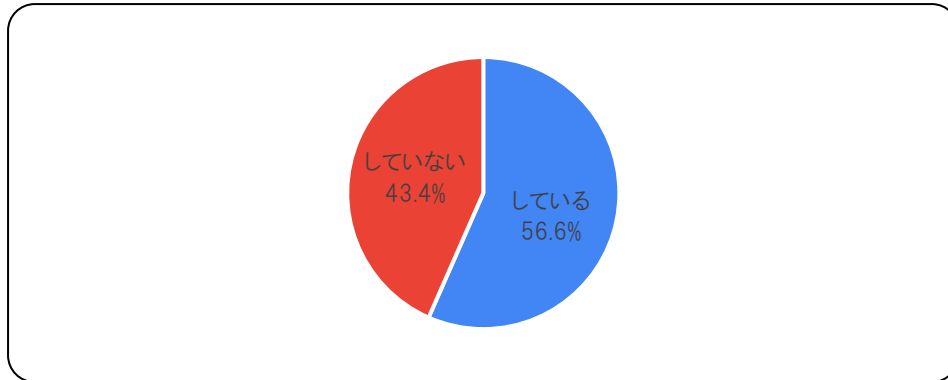
(参照:2. ③ 質問1(1))(N=493)

表 14 ユネスコスクール活動を通して身についた主な資質・能力

主な資質・能力	
地域伝統文化継承への意欲	つながりを大切にする力
コミュニケーション力	課題解決力
地球市民意識	自然との共生感と循環意識
地域社会へ貢献しようとする力	奉仕の精神
他者を尊重する態度、協調性	批判的思考力
自発的な学習意欲	プレゼンテーション力
粘り強さ	情報を収集・分析・発信する力
環境保護への意識	思いやりや助け合いの心
社会規範	物事を受容する態度
多面的・総合的に考える力	未来像を予測して計画を立てる力
外国の文化や言語への興味・関心	外国語の語学力が向上
論理的、科学的思考力	企画運営等の実践力
課題発見・設定力	平和の尊重
使命感の育成	課題の内面化
多様性の理解・尊重	主体的に学びに向かう態度
前向きで肯定的な姿勢	地域への愛着
世界的視野の獲得	持続可能なライフスタイルの実践
人権意識の醸成	課題追及力

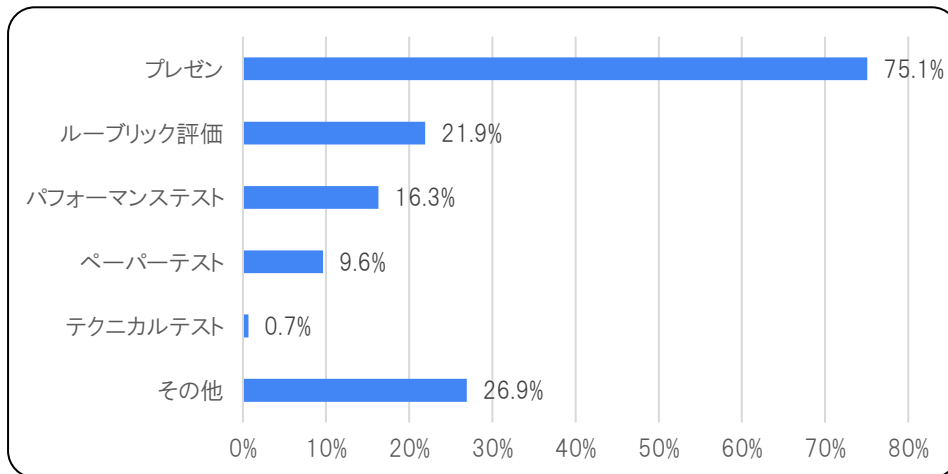
(参照:2. ③ 質問1(2))(N=318)

図 32 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための工夫



(参照:2. ③ 質問1(3))[N=493]

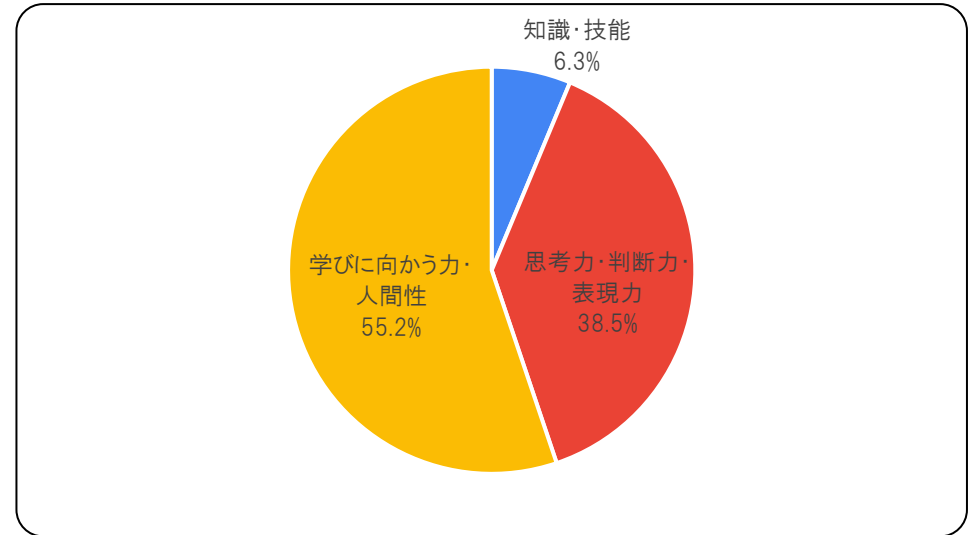
図 33 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための評価方法



(参照:2. ③ 質問1(4))[N=301(※複数回答可)]

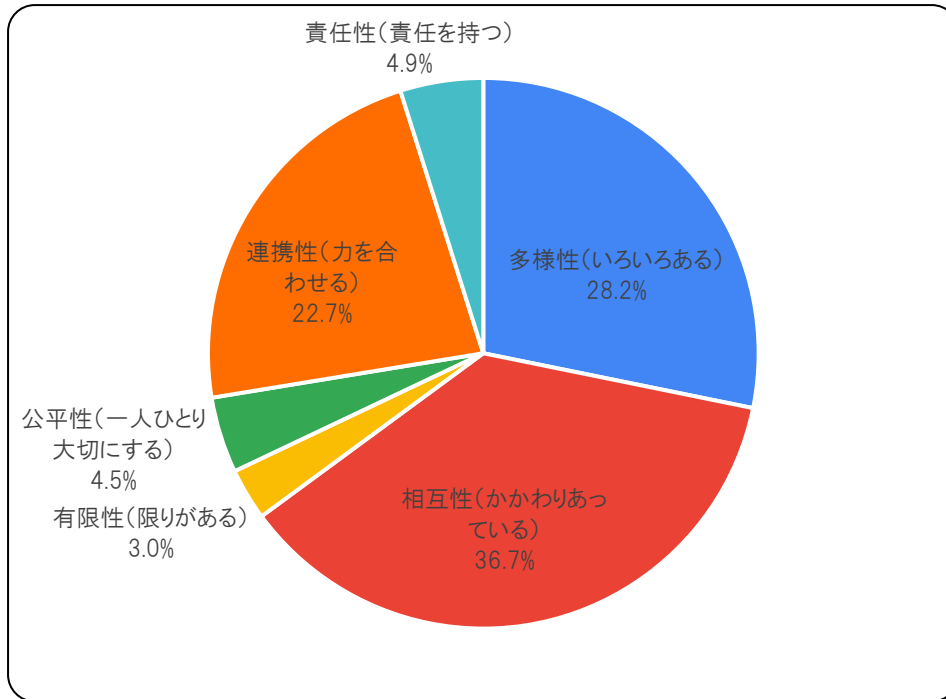
その他の主な回答:アンケート、ポートフォリオ、成果物、振り返りの記述や感想文

図 34 最も変化の見られた「資質・能力の三つの柱」



(参照:2. ③ 質問1(5))[N=493]

図 35 最も変化の見られた持続可能な社会づくりを構成する6つの視点



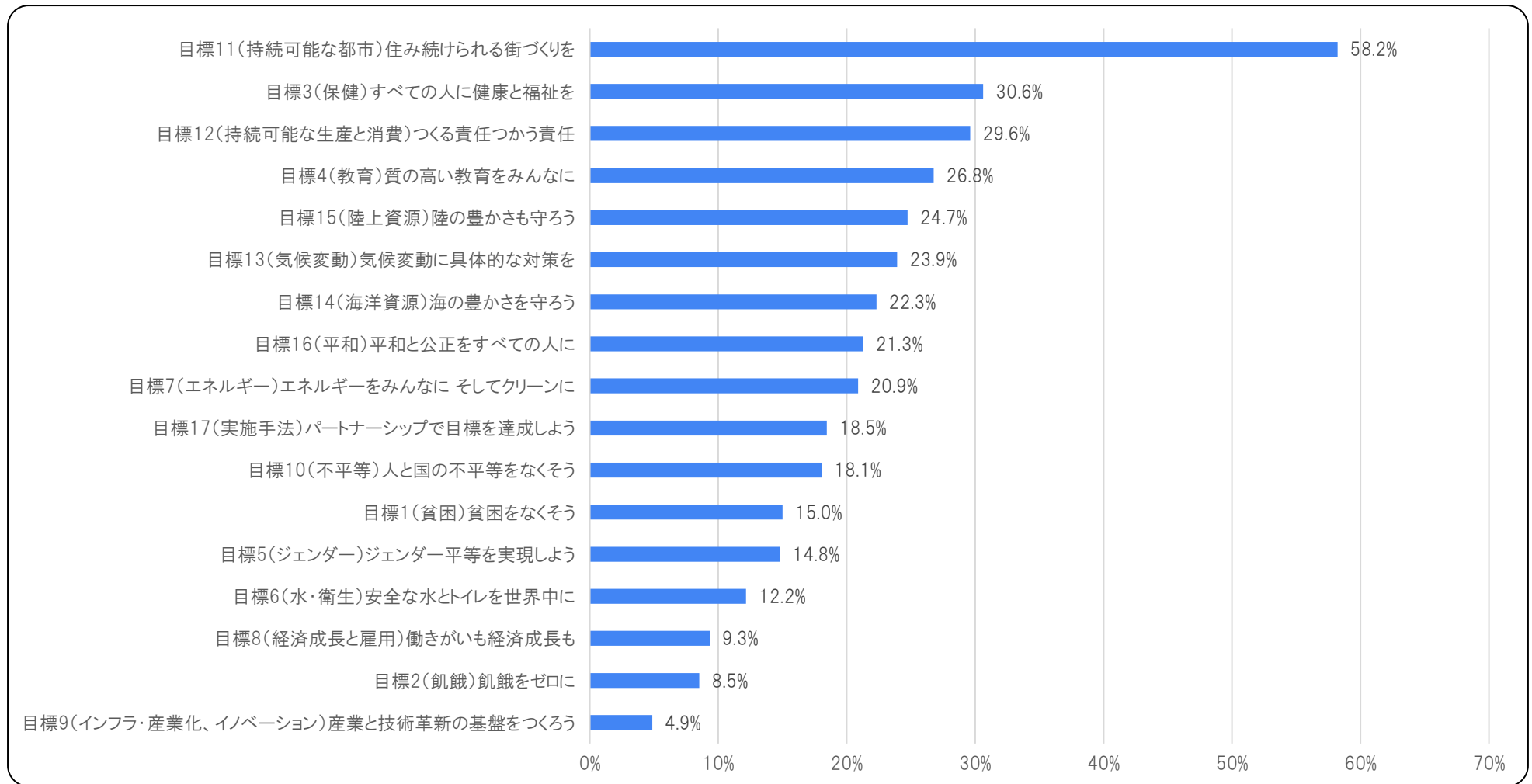
(参照:2. ③ 質問1(6))[N=493]

表 15 児童生徒の変化を促した主なきっかけ

・ 総合的な学習や探究の時間での体験学習を通じた学び
・ 地域とのつながりがある教育活動をおこなったこと
・ 訪問先での、普段接しない人々との交流活動
・ 国際・福祉・環境・平和・海洋・防災教育など、SDGs に関わる教育活動
・ 児童生徒主体の学習活動
・ 発表会など、成果を表現する機会を設けたこと

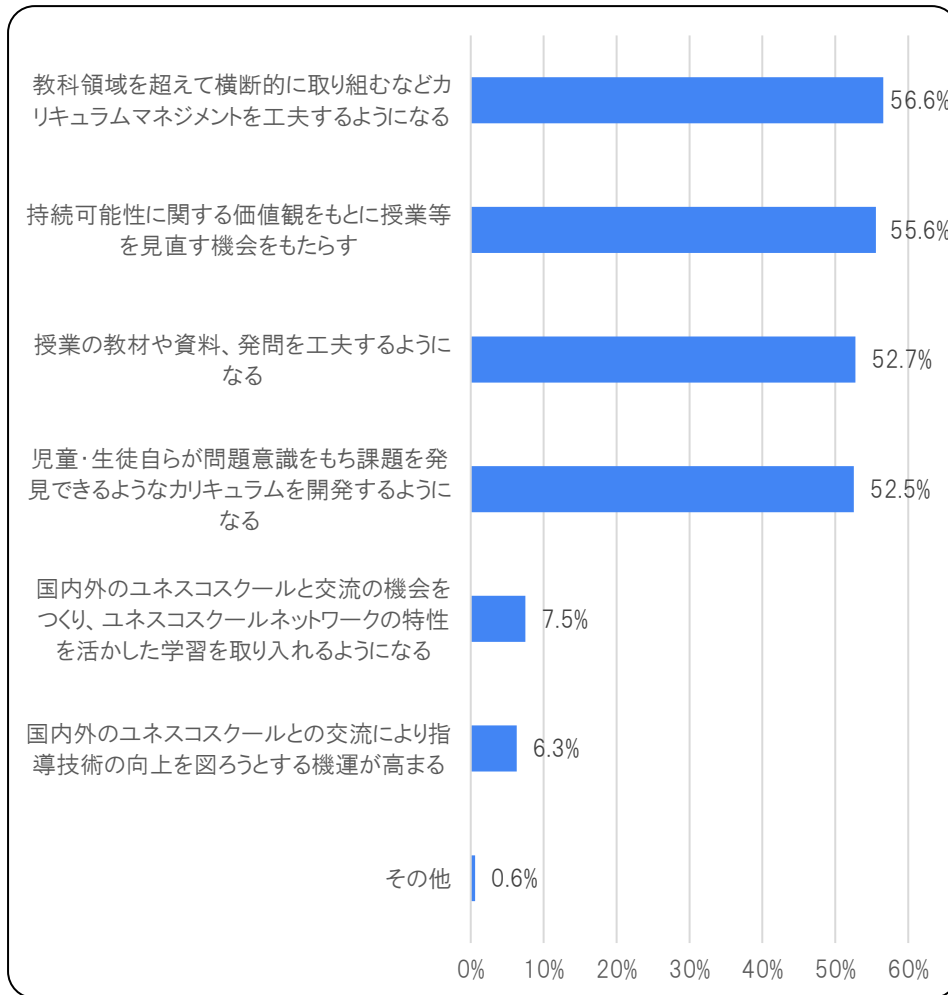
(参照:2. ③ 質問2)[N=280]

図 36 ユネスコスクールの教育活動で取り上げた SDGs17 の目標



(参照:2. ③ 質問3)[N=493(※上位3つまでを選択)]

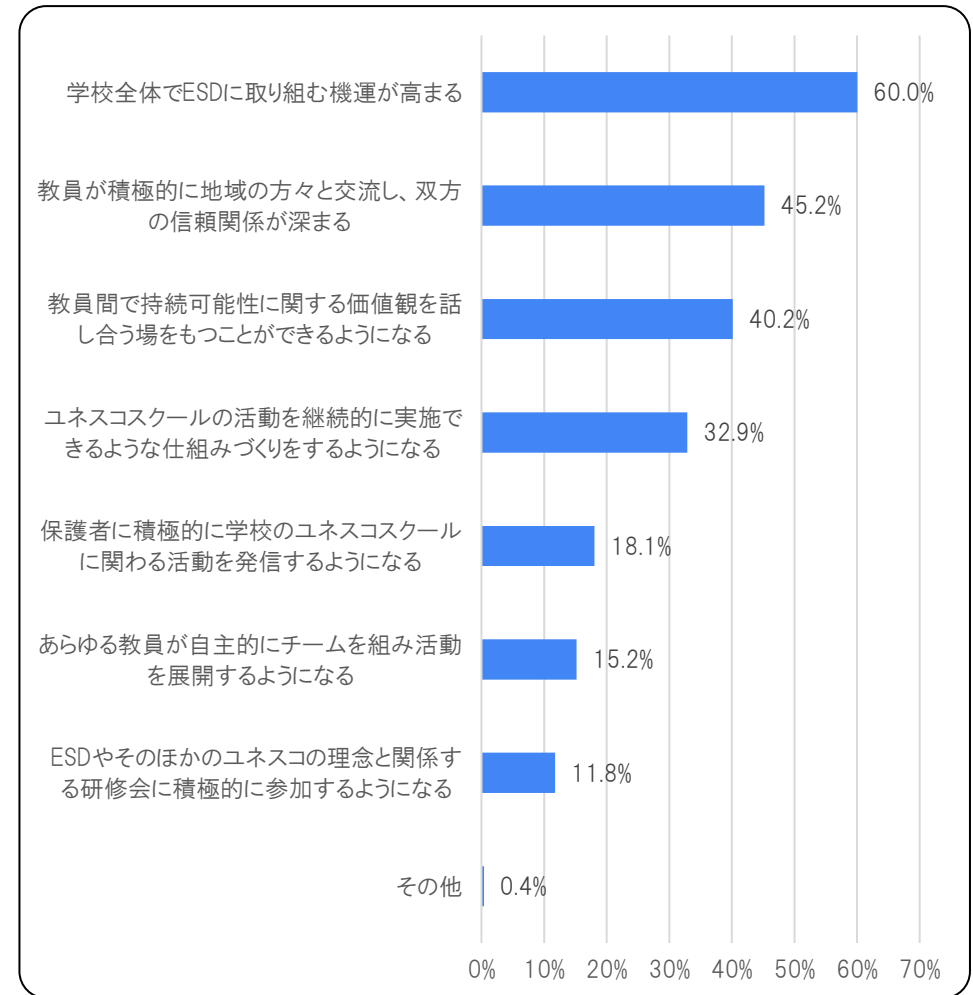
図 37 ユネスコスクールの教育活動による教員のカリキュラム・教授法の変化



(参照:2. ③ 質問 4(1))[N=493(※複数回答可)]

その他の主な回答:ESD カレンダーの指導内容と SDGsとの関連を見直すようになる。外部人材を積極的に活用するようになる。

図 38 ユネスコスクールの教育活動による教員の学校運営の変化



(参照:2. ③ 質問 4(2))[N=493(※複数回答可)]

その他の回答が選択肢に含まれる内容であった

表 16 教職員の変化を促した主なきっかけ

・ 地域を巻き込んだ学習活動/地域交流
・ 総合的な学習の時間の活用
・ 学習発表の機会を設けたこと
・ 校内研修
・ 校内研究会の実施
・ 校外研修/学校間交流
・ 地域の人材を活かした授業づくり
・ ESD に関する研修の受講およびその後の授業実践
・ 学校間、地域内の連携
・ 取り組みについて発表し、話し合う機会を設けたこと

(参照:2. ③ 質問 5)[N=214]

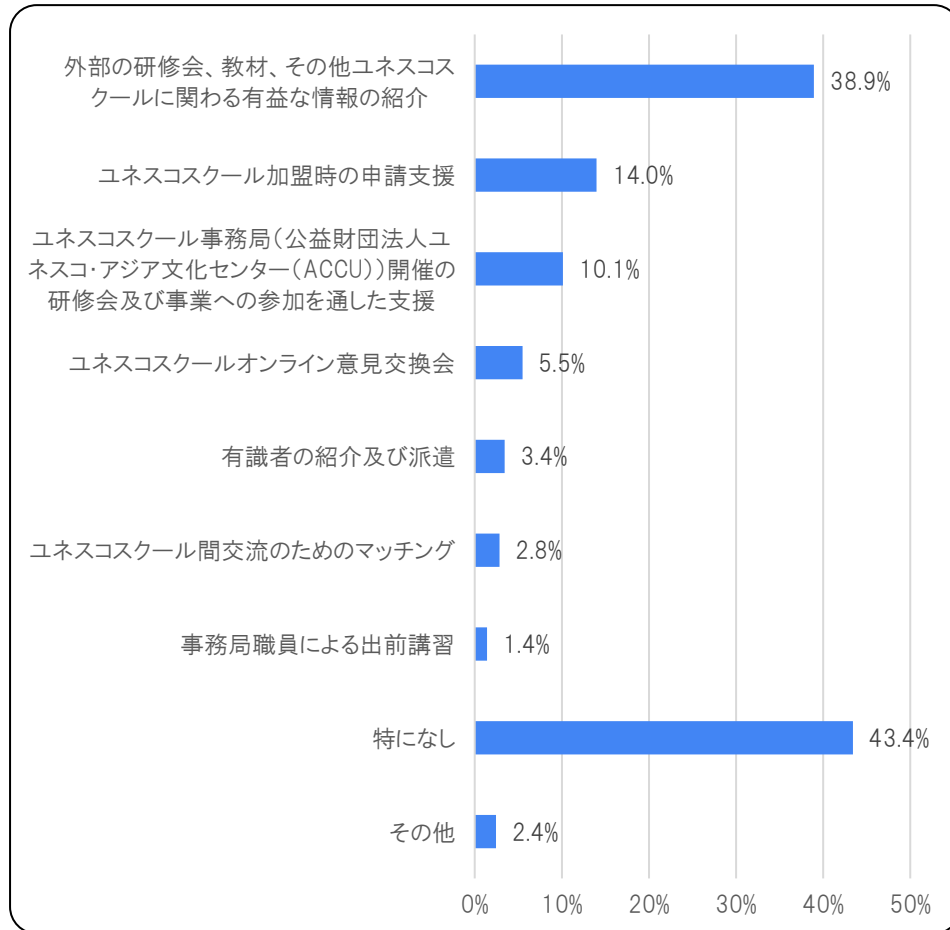
表 17 教職員の活動意欲が向上した主な取り組み

・ 外部講師の研修会実施
・ 外部への活動発表の機会を設けること
・ 地域人材と協働した実践づくり
・ 教員間の交流(校内、地域内、海外)
・ 校内研究授業, 事後研究会, 研究発表会
・ 第三者からの評価
・ 教科横断的な授業実践づくり
・ 総合的な学習の時間の活用
・ 生徒と共同した取り組み
・ 企業が主催するプロジェクトへの参加

(参照:2. ③ 質問 6)[N=148]

ユネスコスクール支援の利用状況

図 39 ユネスコスクール事務局の利用状況



(参照:3. 質問1)[N=493(※複数回答可)]

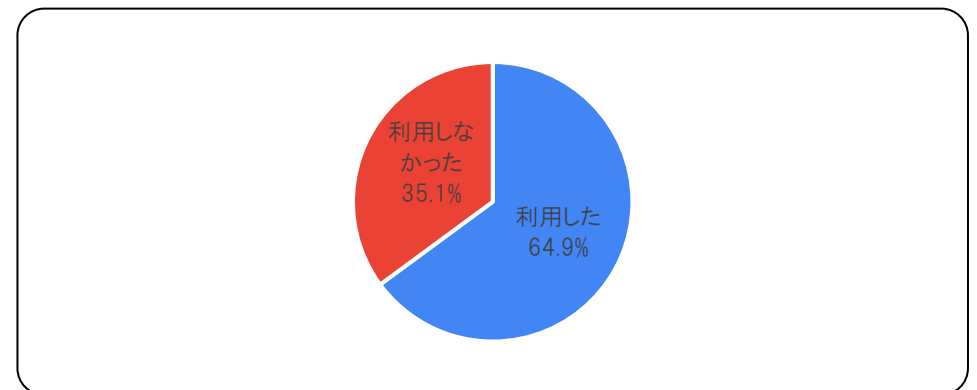
その他の主な回答:ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト助成金や書き損じはがきキャンペーン等の
情報提供、年次活動報告書関連の問い合わせ

表 18 ユネスコスクール事務局に求める支援内容

・ 活動費用に対する支援
・ 講師派遣、出前授業や研修会の開催
・ 外部イベントや海外のユネスコスクール一覧など、各種の情報提供
・ 実践例や映像資料の提供
・ 支援メニューの明示化
・ 活動報告書の提出方法の簡素化

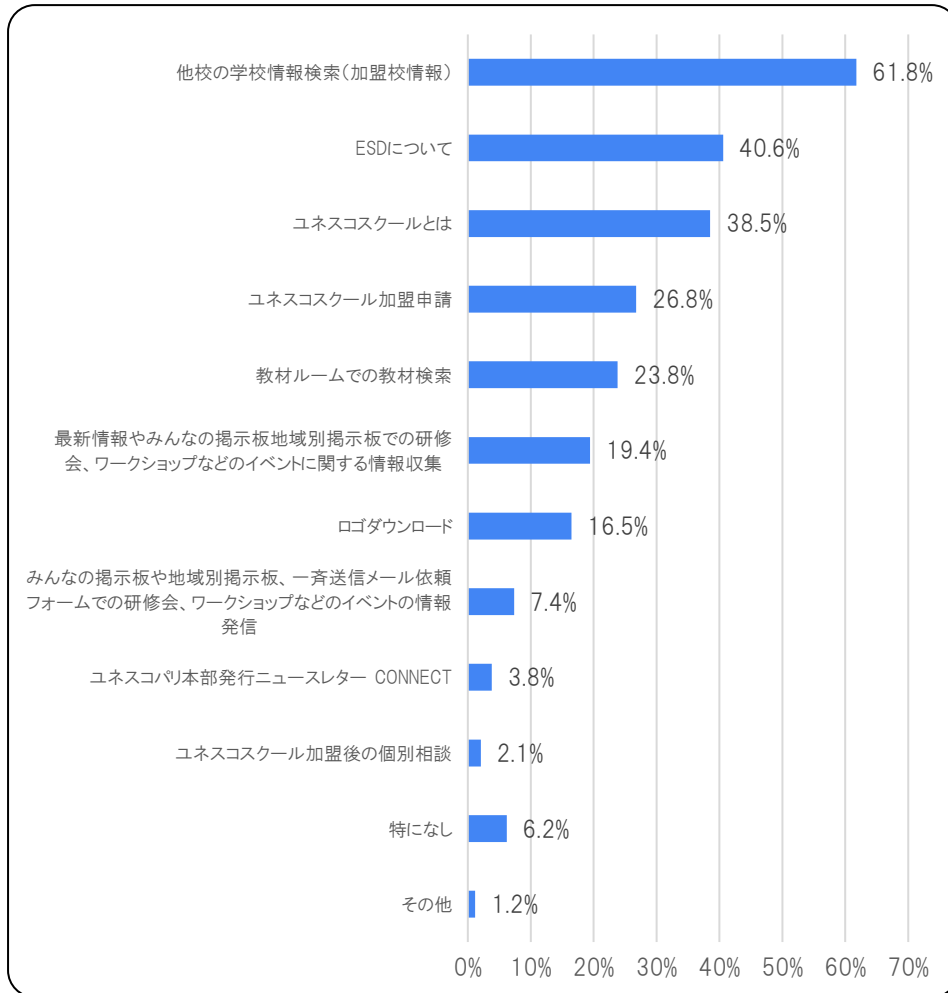
(参照:3. 質問2)[N=129]

図 40 ユネスコスクール公式ウェブサイトの利用状況



(参照:3. 質問3)[N=493]

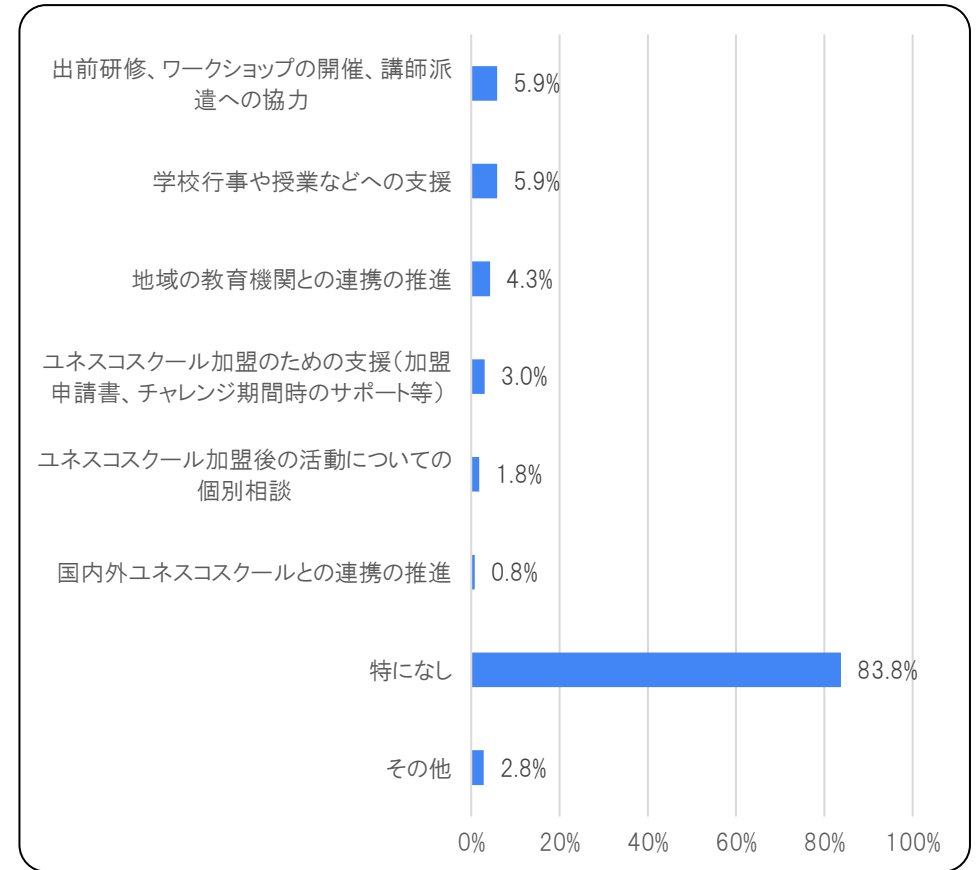
図 41 ユネスコスクール公式ウェブサイト機能の利用状況



(参照:3. 質問 4)[N=340(※複数回答可)]

その他の主な回答: 他校の活動報告書、ユネスコスクールに関する諸手続、国際デーに関する情報収集

図 42 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)からの協力・支援内容



(参照:3. 質問 5)[N=493(※複数回答可)]

表 19 質問5「その他」を選択した場合、簡潔にご記入ください。

・ 教育委員会主催行事での講演
・ プロジェクトでの協働
・ 大学の留学生との交流活動の実施
・ ユネスコスクールに関わるイベントの紹介
・ 学校外のユネスコスクールに関わるイベントでの講師依頼

(参照:3. 質問 6)[N=13]

制作

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル

E-mail: webmaster@accu.or.jp URL: <http://www.accu.or.jp>

ユネスコスクール公式ウェブサイト: <https://www.unesco-school.mext.go.jp/>

令和 3(2021)年度 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業の一環として文部科学省の委託を受けて作成しております。